

公開実用 昭和63- 87072

3/3

Citation: Japanese Publication No. 63-87072
Kabushikikaisya Kotobuki

⑩ 日本国特許庁 (JP)

⑪ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報 (U)

昭63- 87072

⑬ Int. Cl. 4

B 43 K 24/06

識別記号

庁内整理番号

6863-2C

⑭ 公開 昭和63年(1988)6月7日

審査請求 未請求 (全 頁)

⑮ 考案の名称 筆記具

⑯ 実 願 昭61-182940

⑰ 出 願 昭61(1986)11月27日

⑮ 考案者 陰山 秀平 埼玉県川越市大字鯨井字犬竹138番地 株式会社壽川越工場内

⑯ 出願人 株式会社 壽 京都府京都市北区紫竹西栗栖町13

⑰ 代理人 弁理士 石戸 元

BEST AVAILABLE COPY

◎日本分類

118 A 38
118 A 3
118 A 37
118 A 531

日本国特許庁

◎実用新案出願公告

昭45-24978

◎実用新案公報

◎公告 昭和45年(1970)9月30日

(全2頁)

1

◎筆記具

◎実願 昭41-78726
◎出願 昭41(1966)8月22日
◎考案者 加地健
東京都中央区日本橋茅場町2の1
3セーラー万年筆株式会社内
◎出願人 セーラー万年筆株式会社
東京都中央区日本橋茅場町2の1
3
代表者 阪田正三
代理人 弁理士 鈴江武彦 外4名

図面の簡単な説明

図面は本案の一実施例を示し第1図は縦断側面図、第2図は筆記時の縦断側面図、第3図はカム溝の展開図である。

考案の詳細な説明

本案は比較的長さの短い軸筒内にペン本体の出没に関連して軸筒先端より出没する長さ調節用の移動筒を設け、不使用時ペン本体と共に前記移動筒を軸筒内に没入させペン全体を短くして携帯便利にすると共に、使用時ペン本体と共に移動筒を軸筒先端より突出させペン全体を長くして具合よく筆記できるようにした筆記具に関する。

以下本案の一実施例を図面に従い説明すると図中1は比較的長さの短い軸筒で、該軸筒1末端に後述する繰り出し機構aが設けられている。この繰り出し機構aによつて作動されるペン本体2が前記軸筒1内に設けられている。このペン本体2は先端より小径部3、中径部4、大径部5が各々設けられ、前記小径部3先端に設けたボール6にペン本体2内に充填されたインキが導出されるようになっている。前記軸筒1先端内にその開口部7より出没可能に長さ調節用の移動筒8が設けられ該移動筒8は、その末端鉗部9と軸筒1内壁に設けた段部10との間に介在したスプリング11により常時軸筒1内に退入するように偏倚されている。尚前記移動筒8は、その退入時軸筒1内に設

2

けたストップバー12により過りに軸筒1内に入り込まないようにになっている。前記移動筒8はその開口部より末端側に連通して前記ペン本体2の小径部3、中径部4が各々入り込む小径部13、中径部14、大径部15が設けられている。そして前記移動筒8の中径部14と大径部15との段部16と、ペン本体2の中径部4と大径部5との段部17との間に介在したスプリング18によりペン本体2は常時軸筒1内に退入するように偏倚されている。

前記繰り出し機構aは、前記軸筒1末端に設けた回転筒19内面に第3図の如くカム溝20を設け該カム溝20にペン本体2末端部に設けた係合突部21が係合されていて、該突部21がカム溝20の末端休止部b側に位置している時は、移動筒8は軸筒1先端より内方に退入し、ペン本体2の先端部は移動筒8内のに退入しており移動筒8の鉗部9は軸筒1内にストップバー12に箝止して移動筒8、ペン本体2の退入状態が保持されている。そして回転筒19を回転すると、ペン本体2の係合突部21はカム溝20の傾斜に沿つて強制的に先端休止部c側に移動され、ペン本体2はスプリング18に抗しながら適宜構造により回転したいで、前方に移動し、その先端小径部3は、移動筒8開口部より突出すると共に、移動筒8の小径部13、中径部14の段部22とペン本体2の小径部3、中径部4の段部23とが衝合し、ペン本体2と共に移動筒8がスプリング11に抗しながら軸筒1開口部より突出し、第2図の如くペン全体11だけ長くなる。その時、ペン本体2の突部21はカム溝20の先端休止部cに係合し、該休止部により第3図の如くペン本体2の突出状態が保持されている。前記回転筒19を前記と逆回転すると、ペン本体の突部21とカム溝20の係止部cの係合が外れ、カム溝20に案内されペン本体2は、スプリング18の弾力により後方に移動すると共に先端小径部3は移動筒8内に没入し移動筒8もスプリング11の弾力により軸筒1内に没入し、その鉗部9がストップバー12に箝

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 実用新案公報 (Y2)

(11)実用新案出願公告番号

実公平7-32133

(24) (44)公告日 平成7年(1995)7月26日

(51) Int.Cl. ⁶ B 43 K 24/06 21/08	識別記号 6863-2C	府内整理番号 6863-2C	F I	技術表示箇所
--	-----------------	-------------------	-----	--------

請求項の数3(全6頁)

(21)出願番号 実願平3-73203	(22)出願日 平成3年(1991)9月11日
(65)公開番号 実開平5-26476	(43)公開日 平成5年(1993)4月6日

(71)出願人 アキ貿易株式会社 東京都台東区柳橋2-16-14
(72)考案者 阿木 順華 東京都千代田区平河町1-7-5 ピラロ イヤル平河401
(72)考案者 猪鼻 国隆 東京都足立区関原3-36-16
(74)代理人 弁理士 浅村 皓 (外3名)

審査官 白樺 泰子

(54)【考案の名称】回転線出し式筆記具

1

【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】両端が開口している前外筒(12-1)と該前外筒に対し回転自在な後外筒(12-2)とからなるケーシング(12)と;該ケーシング内に配置された中間スリーブユニット(14)と;該中間スリーブユニットを軸方向に貫通して延びかつ該中間スリーブユニットに対して回転不能で軸方向には可動な内側スリーブユニット(16)とを備え、前記中間スリーブユニット(14)は前記前外筒の内周面に対し固定された継ぎパイプ(14-1)と該継ぎパイプの後端部に対して前記後外筒と共に回転自在でかつ軸方向には不動に連結された線出しパイプ(14-2)とを有し、該線出しパイプの内周面にはねじ溝(14-3)が形成されており、前記内側スリーブユニット(16)の外周面には前記ねじ溝に螺合する凸部(16-4)が設けられており、よ

2

て、前記前外筒(12-1)に対して前記後外筒(12-2)と前記線出しパイプ(14-2)とを一方向に回転させた時に前記内側スリーブユニット(16)は、その前端部(16-1)が前記前外筒(12-1)内に位置する第1の位置から該前端部(16-1)が該前外筒の前端の開口から外に突出する第2の位置まで、前記中間スリーブユニット(14)内を前方に移動するようになっており、さらに、前記内側スリーブユニット(16)の周壁には軸方向のスリット(16-5)が形成されており、該内側スリーブユニット(16)内には細長い筆記ユニット(18)が軸方向に摺動自在に配置され、該筆記ユニットは前記スリット(16-5)を貫通して半径方向外方向に突出する突起(18-2a)を有し、前記前外筒(12-1)に対して前記後外筒(12-2)と前記線出しパイプ(14-2)とを更に前記一